

# 竜ヶ崎ロータリークラブ

Weekly Report

「うまれいづるかたち」

山中宣明 / 公益社団法人二科会  
茨城県美術展覧会  
委員理事



本日のロータリー・ソング  
「それでこそロータリー」

どこであっても  
やあと言おうよ  
見つけた時にゃ  
おいと呼ぼうよ  
遠い時には  
手を振り合おうよ  
それでこそ  
ローローロータリー



◆ 本日のプログラム ◆

外部卓話

◆ 今後の予定 ◆

- 10/1プログラム 祝事 米山月間 (米山委員会)
- 10/15プログラム 職業奉仕月間につき委員長卓話

- 10/8プログラム クラブ協議会② 夜間例
- 10/22プログラム 外部卓話

◆◆◆ 例会記録 2013年9月17日(火) 晴 ◆◆◆

点 鐘 岩田前会長

ロータリー・ソング 我らの生業

ゲスト 大野寿子様  
(メイク・ア・ウィッシュ・オブ・ジャパン事務局長)

出席報告 金子委員長

会員数	出席数	出席率	出席免除	先々週の訂正出席率
38名	33名	89.47%	1名 ※2	94.59%

※1:クラブ定款第9条第3節 ※2:クラブ細則第11条

欠席 杉野さん 神山さん 眞鍋さん 菊地さん  
※2 波多野さん

メイク・アップ

秋田さん (龍ヶ崎中央RC) 石嶋さん (友部RC)

会長報告

(代) 岩田前会長  
報告はございません。

幹事報告

報告はございません。

委員会報告

前回の会報P3  
野上さんのコメント2行目5千人は5万人に訂正します。

プログラム内容 大野寿子さん卓話

点 鐘 岩田前会長

10/8はクラブ協議会  
(ガバナー公式訪問対応)  
17:30~ クラブ協議会  
18:30~ 夜間例会及び、  
新会員歓迎会 (場所:松泉閣)

## ニコニコボックス

本日の合計

8件 ¥16,000

本年度累計

143件 ¥474,000

¥3,000

- ・倉沢さん 入会おめでとうございます。櫻井さんは娘のだんなと同じ歳です。
- ・田坂さん 大野さん、今日はお忙しい中ありがとうございます。工藤さん、そしてアドバンスの社員の方、DVDのお手伝い感謝です。

¥2,000

- ・秋田さん 龍ヶ崎中央RCでISO.26000の話をつぶり聞いてきました。

- ・佐伯さん 週報に写真が載りました。
- ・服部さん 秋田さんに大変お世話になりました。ありがとうございました。
- ・山崎さん 本日、岩田前会長、工藤さんは大変ご苦労さまです。よろしくお願ひします。

¥1,000

- ・坂本さん 先週例会を休みました。
- ・滝澤さん 早退します。

会長 杉野 訓男

幹事 八木 徹

SAA 山崎 恭弘

例会日: 火曜日 12:30~13:30 例会場: 〒301-0011 龍ヶ崎市横町4209 常陽銀行竜崎支店2階  
竜ヶ崎ロータリー・クラブ (R1第2820地区第7分区) 創立1959年11月25日  
E-mail: starall@beige.ocn.ne.jp ☎090-3335-7349 ホームページ http://ryugasaki-rc.org/  
スポンサー・クラブ: 土浦ロータリー・クラブ 姉妹クラブ: 仙台東ロータリー・クラブ

## 外部卓話

## 「メイク・ア・ウィッシュ・オブ・ジャパンと私」

メイク・ア・ウィッシュ・オブ・ジャパン事務局長 大野 寿子さん



「メイク・ア・ウィッシュ」というのは本当に素敵な活動です。ぜひそれをお伝えしたい、そしてここにいる皆さんをみんなメイク・ア・ウィッシュのファンにしたい…いつもそう願っているのでお話しをいただいた時にはもう大喜びで馳せ参じました。

メイク・ア・ウィッシュとは先程ご紹介いただいたように「願いごと」ということです。子供の頃、どんな願いごとを持ったでしょうか？私は今62才ですが、私の年代ですと男の子は王さんや長嶋さんにあこがれて野球に夢中でした。またビートルズに夢中になったり、海外旅行に行ってみてみたいと思ったり…。

病気の子供も同じです。あれやりたい、これやりたい、どこどこに行きたい、だれだれに会いたい…。でも病気が重いと、返ってくる言葉は

「病気が治ったらね。元気になったらできるからそれまでがんばろうね。」

また“がんばろう”か…。もう言われなくても頑張り続けている子供達です。3ヶ月、6ヶ月、1年、もしかしたら生まれた時からずっとがんばり続けている。これからだって「がんばれよ！」です。でもがんばっただけでは病気は治らない。病気が治らなければどうせ何もできないんだ。そう思って夢を見ることをあきらめてしまう…。

そんな子供達一人一人に、ピンポイントで、オーダーメイドで「あなたの夢何ですか？」「その夢かなえるお手伝いしますよ。」というのが、メイク・ア・ウィッシュの活動です。

ご紹介いただいた通り、もともとは今から35年前、アメリカでクリス君という子の夢を叶えたところから始まりました。たった1人の男の子の夢に本気で立ち向かう大人の人達がいた、そして、その夢がかなった時、自分のことのように喜ぶ大人達…。私はすごく感動しました。

今では、世界38ヶ国、夢をかなえた子供の数は30万人を超える、世界的なヴォランティア団体になりました。私達はその日本支部です。'92年12月にスーザンさんというアメリカ人が沖縄にいる時、立ち上げました。そして今日まで2,126人の子どもの夢のお手伝いをしてきました。

2,126人、もう言葉で言うと言です。でも、2,126人には2,126通りの思いがあり、夢、願い、家族の愛があり、ドラマがありました。中には小さな奇跡もありました。例えば筑波大で病気と闘っていたリュウノスケ君です。

リュウノスケ君は病気がどんどん進んで、指一本動かすことができませんでした。そこにM78からウルトラマンがやってくる。「リュウちゃん、君に会うために私は来た！」リュウちゃんの手が、腕が、動き始めました。リュウちゃんがウルトラマンと握手をしたからです。「あ、リュウちゃん！手が動いたよ！」実はリュウちゃんは、2週間後に腕を切断することが決まっていた。「見た？！今確かに腕が、手が、動いたよね！」

また水戸の子供病院のショウヘイ君です。ショウちゃんはムコ多糖症という病気の為

に、どんどん人間的感情や言葉を忘れていきました。でも、「イルカに会いたい。」という夢を実現する旅の間に、とっても素敵な言葉を思い出していきます。“お母さん” “ジュンペイ（弟の名前）” “どうもありがとう”

そんな小さな奇跡を散りばめながらの2,126人全員にあったものは、とびっきりの「笑顔」です。とびっきり、ピカー、もう、トロトロ…！あの子があんなに笑って、あんなに喜んで、あんなにはしゃいで、－1人の子供の笑顔は、子供からご家族に、そのお手伝いをしたボランティアさん、その話を聞いた沢山の人、をギュッと一つの心に結びながら、活動が続いてきました。キーワードは多分、「病気」から始まるのではなく、「夢」という言葉から始まり、「笑顔」それから「喜び」という言葉のつながりだと思えます。

私達の活動は3才から18才未満の「難病」の子供達に対してですが、決して“死に至る子供達”という訳ではなくて、手足が不自由とか耳が不自由、また命そのものを脅かされるような、そういう重い病気と闘う子供をピンポイントで、オーダーメイドで、一人ずつ、そしてその子供と兄弟、お父さん、お母さん、家族丸ごと、費用から段どりから全てを全く無償で提供していく－そういう活動です。

そんな中でよく言われます。「メイク・ア・ウィッシュ？ 知ってます。かわいそうな、気の毒な、死んじゃう子の最後のお願い、いい思い出づくり、そんな慈善団体ですね。」と。でも実はそうではない、ということ、今日、ご覧いただきたいと思えます。

#### －筋ジストロフィーを患う和馬君のビデオ－

住まいのある京都烏丸から、大好きな阪神タイガーズの甲子園まで、一駅づつ徒歩と電車の6年がかりの旅、旅の終わりにあこがれの赤星選手に会うという夢を実現

私はこの仕事に携わるようになって、19年になります。最初に話を聞いた時に「もう何てステキ！」という思いから無理やり押しかけて入ったスタッフの第一号です。一番最初にした仕事は、どこからも夢の申し込みがなかったので、色々な病院を訪問することでした。がんセンターの小児病棟に行った時、部長の大平先生がおっしゃいました。「二週間遅かった！」高知から東京のがんセンターに治療に来ていた男の子が二週間前に亡くなったのだそうです。「兄弟に会いたい、兄弟に会いたい…」と言って亡くなったというのを聞きました。この言葉は、すごく、もう本当に私を揺さぶりました。どんなに会いたかったらどうか。そしてその思いを聞いてやれない親御さんのことを思いました。何ヶ月に一回だけお父さんが高知から出てくる。多分それは経済的な問題ではなかったらどうかと思いました。もし、そうであったら、その思いを果たしてやれなかった親としての情けなさ、惨めさ、申し訳なさ、一生その十字架を背負い続けることになるのではないだろうか。

でも、もし、この家族が二ヶ月前にメイク・ア・ウィッシュのことを知っていたら、「メイク何とかっていう所から飛行機の切符を送ってきて、家族皆で初めて飛行機に乗って、お兄ちゃんの所へ行ったよ…」ということが実現して、この子や兄弟、家族にとってどんなに温いものが残っただろうか、と思いました。この時から私は「よし、メイク・ア・ウィッシュの種まきおばさんになろう！」と思い始めました。日本中の子供達に、こんな活動があるということを知らせたい、そして申し込みが来た時に、いつでも動けるだけの人の力とお金の力を持ちたい、そう思って種まきおばさんの人生が今日まで続

いてきました。

私達の活動は、普段は三輪車のようなものです。

前の車輪で一人一人の子供の夢を叶えます。ここに必要なのは色々な人達の時間や労力やネットワークです。そしてこの前の車輪をシャキッと走らせる為に、後ろの車輪はさらにフル回転いたします。その一つはやはりお金を集めることです。マラソン大会やコンサート、あるいは募金箱を置いていただいたりしています。一番最後の車輪—それが今日私が、竜ヶ崎ロータリー・クラブの皆さんにお願いしたい車輪です。それは広報活動—「伝える」という車輪です。それも、かわいそうな、気の毒な、死んじゃう子の最後のお願ひ、ではなくて、病氣と闘いながらも夢を思い描く、その明るい、強い子供達を応援する、それはまた応援する側も豊かなものをもらっていくんだということをぜひ周囲の人達に伝えてほしいなあと思います。

ロータリー・クラブの皆さんは社会のリーダーの方々です。どうぞ皆様から、たくさんの方に種まきをするお手伝いをして欲しいなあと思います。

お招き下さいましてありがとうございました。

## 新会員入会式

### 櫻井 裕之 Hiroyuki Sakurai



生年月日 1962年7月5日

自宅 住所  
〒301-0004 龍ヶ崎市馴馬町585-6  
竜ヶ崎第1グリーンコーポ502  
携帯 090-2548-9149

勤務先 (株)常陽銀行  
住所  
〒301-0011 龍ヶ崎市横町4209  
電話 0297-62-2112 FAX 0297-64-2001

#### 経歴

昭和60年4月 常陽銀行入行 東京支店（現東京営業部）配属  
平成17年10月 荃崎支店長  
平成19年6月 営業統括部次長  
平成20年6月 東海支店長  
平成22年6月 新宿支店長  
平成25年6月 竜崎支店長

家族 櫻井 啓子 妻 S 38.11.6生 水戸在住  
愛音 長女 H 3.9.23生 東京在住  
隆之介 長男 H 7.9.11生 水戸在住  
結婚記念日 2月10日 趣味 小説の濫読 ゴルフ